

# 外国語（英語）

東京書籍

開隆堂

三省堂

教育出版

光村図書

啓林館

令和6年度

中高・飯水地区中学校教科用図書採択研究協議会

種目 (外国語)

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">東京書籍 (NEW HORIZON English Course)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4技能5領域の言語活動が配置され、各 Unit では単元目標が明示されており、見通しをもって新たな知識及び技能を活用しながら、それらを段階的に習得できるような構成になっている。</li> <li>・ 生徒が簡単な情報や考えなどを自ら思考・判断して適切に表現できるよう、目的や場面・状況に応じた言語活動が設定されている。</li> <li>・ 主体的にコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために、多様な文化や価値観に気づくことができる題材を取り入れている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小中接続期の学習がスムーズに移行できるよう、小学校の学習内容を再確認できる単元が設定されている。</li> <li>(2) 各 Unit では、聞いたり読んだりして理解した英語を利活用しながら、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動へと、スモールステップを積み上げていけるよう工夫されている。</li> <li>(3) 学校生活などの身近な話題から海外旅行、世界遺産、日本文化、動物愛護、環境問題、国際協力など、生徒の発達段階に応じて扱う題材の内容が広がるよう工夫されている。</li> <li>(4) 5領域を関連づけ、単元内の諸活動を統合的に活用していけるよう、「Stage Activity」が各学年に3回ずつ配置されている。</li> <li>(5) 小学校で扱った単語や活動には印がついていたり、色や形を用いて語順を識別できたりするよう工夫されている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Unit において、英語を聞いたり、読んだり、話したりしたあとに、自分の考えを書く構成になっている。</li> <li>(2) 1年生では読み取りのポイントを単元冒頭の質問としてあり、2・3年生では「単元を貫く問い」が Unit のタイトルになっている。「Unit Goal」と「Unit Activity」に向けて、英語を話したり書いたりする Activity が段階的に配置され、少しずつ新出表現を練習する工夫がされている。</li> <li>(3) 「Stage Activity」では、具体的なゴールと目的や場面、状況などがともに示されており、情報を整理して、既習事項を用いながら自分の考えを表現できるよう配慮されている。</li> <li>(4) 「Real Life English」では、日常的な場面や目的に応じて、各技能領域に特化した言語活動が設定されている。</li> <li>(5) Key Sentence を使う目的や場面、状況などをイメージしながら表現の定着を図ることができるイラストや、考えるヒントとなる説明が吹き出しで挿入されている。</li> <li>(6) 各 Unit の扉にある単元目標の達成状況が確認できるように、単元末活動には振り返りがあり、巻末にはCAN-DO リストが設けられている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて既習事項を活用しながら、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を身につけるために、言語材料を段階的に学習していく工夫がなされている。</li> <li>・ 単元の扉にゴールが設定されており、Stage ごとに巻末の CAN-DO リストを活用して自分の学習を振り返ることができるよう配慮されている。</li> </ul>

種目（外国語（英語））

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">開隆堂（Sunshine English Course）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元のとびらに目標が分かりやすく示されており、またその目標の達成度を自己評価できるような工夫もされている。導入部分で新出表現を取り上げているため、基礎・基本が身に付きやすく、実際に新出表現を使いやすいよう構成されている。</li> <li>・ 新出表現導入の場面では、日常会話が設定されており、それを用以てすぐに会話練習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 外国の文化や日本の文化、学校行事についても触れられており、興味をもってコミュニケーションが図れるよう工夫がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「Get Ready」では小学校で学習した内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」ことの順番で復習できるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 1年次では、主に日常的な話題や外国の文化や自然についての話題に多く触れており、2・3年次では、社会的な話題や課題解決について考えたりできるようになっている。</li> <li>(3) SDGsと結びつけられた題材が多く、目次や単元のはじめには、SDGsのどの項目があてはまるのか示されており、社会的な話題を外国語を通して学べるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 各学年に配置されている「Our Project」では、単元で学習した新出表現を使って自分の考えを伝える活動が設定されている。</li> <li>(5) 題材導入のページではクイズや簡単なリスニングで、これから学習する単元の内容がイメージできるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元はじめのとびらで目標を確認し、新出表現を導入してから本文の内容を理解し、最後に自己表現できるよう構成されている。</li> <li>(2) 「Scenes」の「Listen」で、必要な情報を聞き取り、「Speak &amp; Write」で、ペアでの対話の後に自分のことを書く流れになっており、新出表現を身に付けやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「Our Project」では、スピーチに向けて、モデル文を読んだり、伝えたい内容を書き出ししたりすることによって手立てが分かりやすく、自己表現力等を育成しやすい工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Review」や「Retell」で本文の内容を自分の内容を振り返り、「Action」で本文の題材に関連した自己表現活動が設定されている。</li> <li>(5) ところどころに現れる動物のキャラクターがポイントを説明しており、学習者がポイントに注目しやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 巻末のCAN-DOリストで、単元ごと何ができるようになったのかをチェックして、達成度を把握できる工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出表現導入の場面の「Scenes」は、2コマ漫画で表されており、表現を実際に使う場面が分かりやすく、これから学ぶ新出表現に興味をもたせる工夫がなされている。</li> <li>・ 「Review&amp;Retell」では、吹き出しを用いたさし絵を活用し、即興でやりとりができるよう工夫がなされている。</li> </ul>

種目（外国語（英語））

<p>発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>三省堂（NEW CROWN English Series）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元が学びの見通しを立てた上で、新しい文法事項を学び、活用する構成になっていることで、4技能5領域の基礎を養えるよう構成されている。</li> <li>・ 各単元末に、目的や場面、状況などを明確にした言語活動が設定され、思考力、判断力、表現力等が培われるよう工夫されている。</li> <li>・ 日本や他国の文化的な背景を考慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われるよう配慮されている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年には小学校の学習を復習する「Starter」が設定され、絵辞書を掲載し語句等が確認できる工夫がなされている。</li> <li>(2) 単元や本文の導入時に、題材や本文の内容に関わってSmall Talkを行うことから始まり、読んだことを基に考えて話す活動を繰り返しながら、単元末の活動へ生かせるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、異文化理解、災害対策、環境問題、平和、日本の伝統文化など、身の回りのことから社会的な課題へと題材が多岐にわたって扱われている。</li> <li>(4) 複数単元後の「Project」では、さまざまな領域や技能を統合して自分の考えや気持ちを伝える表現活動が設定されている。</li> <li>(5) 「Small Talk Plus」では会話を続けるために大切な視点が示され、単元末の活動に関わるやり取りができるよう配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学ぶに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 即興的に話す→理解する→表現する流れの学習形態で統一され、4技能5領域を満遍なく指導できるよう構成されている。</li> <li>(2) 単元末活動「Goal Activity」に向けて、新出文法の定着を図る活動「Exercise」や、読んだことを元に考えを伝え合う活動「Think about Yourself」が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Project」では、言語活動の目的や場面などが示され、表を使って自分の考えや情報を整理し、聞き手を意識したり、構成を考えたりしながら表現する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Take Action」ではチラシやウェブサイト等、日常生活の場面で必要な情報を得たり概要をまとめたりする活動が設定されている。また、連続する場面設定により、生徒の意識が継続しやすい。</li> <li>(5) 写真やイラスト、コミック形式を用い、語句の意味や表現が使用される場面を理解する補助となるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 巻末のCAN-DOリストには、各単元の言語活動との関連が示され、学習到達目標の達成状況が確認できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元末活動「Goal Activity」に向けて、単元を通してやり取りしたり、読んだりしながら、「話すこと」「書くこと」の着想を得られるよう構成されている。</li> <li>・ 写真やイラストが多く用いられ、語句や英文の内容がより具体的にイメージできるよう配慮がなされている。</li> </ul>

種目 (外国語)

<p>採択基準</p> <p>発行者名</p>	<p>教育出版 (ONE WORLD English Course)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 Part が読んだり聞いたりして理解したことを基に表現する構成になっており、習得した知識を基にコミュニケーションで活用する技術を身に付けることができるよう配慮がなされている</li> <li>・ 各単元末の「Task」では目的や場面、状況などが明確に設定され、思考力、表現力、判断力等を育成できる工夫がなされている。</li> <li>・ 各 Part や単元末に自分の考えや気持ちを表現する活動があり、主体的に学習に取り組む態度が育成されるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年の「Lesson 2」までは小学校の復習ができる内容で構成されていて、英文も会話形式で書かれている。</li> <li>(2) 各 Part 「Think &amp; Try」「Read &amp; Try」、単元末「Task」、年3回の「Project」では、自分の考えや気持ちを表現する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、日本文化、異文化、自然、社会、キャリアなど生徒が身近に感じられる題材の配置に工夫がされていると同時に、様々な話題が盛り込まれている。</li> <li>(4) 生徒の内容理解も助けるような挿絵や写真が使われている。また、読みやすいよう少ない配色でまとめられている。</li> <li>(5) 年3回の「Project」では、聞くことから始まり4技能5領域を統合的に活用した活動が位置付けられている。</li> <li>(6) Task のページでは段階的に進めていく内容となり、苦手な生徒にとっても取り掛かりやすい構成になっている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Part で英語を読む・話す・聞く活動を行い、単元末の言語活動に向け考えを話したり書いたりできるよう構成されている。</li> <li>(2) 各 Part の終末に用意された言語活動に向け、必要な言語材料について理解する項目や、話したり聞いたりして定着を図る活動が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Project」では、既習の知識や表現を生かし、4技能5領域の知識及び技能を統合的に活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を働かせながら課題解決に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Useful Expression」では、校舎案内や飲食店、電車の乗り換え案内など日常生活の中で英語を使用する場面が設けられている。</li> <li>(5) 単元のとびらページに当該 Lesson での目指すべき姿が書かれ、裏表紙の CAN-DO リストとも関連付けられている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 Part や各単元だけでなく、年に3回設定されている技能統合型「Project」を通して、4技能5領域を総合的に育成できるよう構成されている。</li> <li>・ 1つの領域に焦点を当てた課題や日常的な場面を想定した活動を通して、生きた英語の習得を目指せるよう構成されている。</li> </ul>

種目 (外国語)

<p style="text-align: right;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">光村図書 (Here We Go ENGLISH COURSE)</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 Part では、左側のストーリーで基本文の形と働きを理解し、右側の活動で場面に沿って基本文をくり返し練習することで、4技能5領域で英語を活用できる力がつくような構成になっている。</li> <li>・ 「Goal」では、目的・場面・状況が明確な言語活動に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成につながるようになっている。</li> <li>・ 登場人物や同世代の人物の目線を通して、自分ごととして様々な話題に向き合うことで、主体的にコミュニケーションをとる態度を身につけられるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1年生初期には小学校の学びを振り返る教材を配置し、段階的に中学校の学習に慣れていけるようにするとともに、2、3年では高校入試などで求められる長文を読む力や自分の考えや理由を表現する力を育成する力の育成も図れるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 実社会での場面特有の英語表現を学ぶ単元、多文化多言語共生の意識をはぐくむ単元などがバランスよく配置されている。</li> <li>(3) 目的に応じた読み方・聞き方のアドバイスや、英語の学び方ガイドなど、生徒が自ら学び方を工夫・改善していくためのガイドが充実している。</li> <li>(4) 発達段階に配慮した英語の書体や、ユニバーサルデザイン書体の日本語が使われている。</li> <li>(5) 写真やイラストを多く用いて表現の使用場面をイメージできるよう工夫がなされ、色覚の多様性に配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年の領域別の到達目標や帯活動が CAN-DO List に示され、段階的にできることが増えていく設計になっている。</li> <li>(2) 本文読解や練習に単元の最後の「Goal」への足場となる活動がプラスされ、豊富なインプットからアウトプットへとスモールステップで活動に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 各単元や帯活動に4技能5領域の活動が繰り返し配置され、継続的、段階的に各技能・領域の力を育てられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 各学年3か所に、それまでの単元で学んできたことを活かして取り組む「まとめの活動」が設定され、到達目標の達成度合いを図ることができるようになっている。</li> <li>(5) 学習の流れに沿って情報のまとまりごとに余白や線で区切ったり、大切なことを太い線で囲んだりなどの工夫をしている。</li> <li>(6) 単元のとびらには、内容を想像しやすい写真やイラストが配置され、単元終末には CAN-DO リストの振り返りが設定されている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語中の出来事や登場人物の気持ちに共感し、ストーリーを楽しみながら繰り返し英語に触れ、目的・場面・状況を自分ごととしてとらえて活用できるように構成されている。</li> <li>・ 既習の表現や語彙に繰り返し出合えるよう言語活動や帯教材の配列に工夫がなされている。</li> </ul>

種目 (外国語)

採択基準	発行者名 啓林館 (BLUE SKY English Course)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元で4技能5領域が段階を踏んで位置付けられ、学んだ知識及び技能を活用する言語活動が設定されている。単元末には複数領域を統合した活動に取り組める配慮がなされている。</li> <li>目的や場面、状況等に応じた言語活動が設けられ、日常的・社会的な話題で自らの考えを適切に表現できるよう配慮がなされている。</li> <li>日本文化や異文化理解、環境や平和、防災といった多彩な話題が提示されており、多様な題材を通じて生徒の深い学びを助ける工夫がされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1年生ではUnit 5までを「小中接続期」と考え、「聞くこと」「話すこと」を中心に小学校の既習表現を整理できる。</li> <li>各単元の「Part」学習後に「Listen」「Speak」「Write」が配置され、自分の考えを表現する「Express Yourself」へ向かうよう、段階的に言語活動が積み重なる工夫されている。</li> <li>生徒の興味・関心や発達段階に応じて、文化祭などの身近な話題やSDGsに関連する話題が多く扱われている。海外や日本の物語や伝記を英語で味わうことができるよう工夫がなされている。</li> <li>各学年「Project」の単元では、4技能5領域を統合的に活用し、自分の考えや思いを表現できる内容に設定されている。</li> <li>理解を助ける写真や絵が掲載されており、配色の工夫といった「カラーユニバーサルデザイン」への配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学ぶに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>各単元の「Part」に「Listen」「Speak」「Write」が配置されることで、4技能5領域を偏りなく扱えるよう構成されている。</li> <li>各単元の終末「Think &amp; Speak/Write」で自分の考えを表現する「聞く」「書く」「読む」「話す」活動が段階的に配列されており、単元内で新出表現に繰り返し触れる機会が設定されている。</li> <li>「Project」では目的や場面、状況などが明示されており、表やマッピングなどのシンキングツールを用いて、自分の考えや情報を整理して表現できるよう工夫がなされている。</li> <li>「Let's Talk」では日常生活で身近な表現が扱われ、段階的に言語活動に取り組めるよう工夫され、場面特有な表現も身に着けられるよう配慮されている。</li> <li>対話場面を想像しやすい写真や地図、絵が適切に配置されており、言語活動につなげやすい例文が明記されている。</li> <li>単元の始めに「Unit Goal」が位置付けられ、学習の見通しが立てやすい。CAN-DOリストが掲載されており自己評価ができるよう配慮がなされている。</li> <li>「Enjoy Chatting」では本文の内容に即した内容で、ペアなどで即興的にやり取りする場面が取り入れられている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の「Part」に複数領域を統合した言語活動が設定されており、3学年を通して4技能5領域をバランス良く育成できる工夫がなされている。</li> <li>各学年「聞く活動」に特化した「Let's Listen」が設定されており、英文を段階的に聞き取る工夫がなされている。</li> </ul>